

## ラメール図 | LaMer diagram

閉鎖溶液系から単分散微粒子を析出させる為の、溶質濃度と時間の関係をプロットして、単分散微粒子生成のための原理と条件の探索に活用するもの。1950年 LaMer 等によって考案された。溶質の更なる添加によって溶液中の溶出濃度は時間と共に上昇し、ある臨界の過飽和濃度 ( $C_{min}$ ) を越える時間から、核の生成が開始される。核の生成が進行し、一定量の核が生成されると、溶液の過飽和濃度は急激に低下するため核成長はただちにストップし、その後は既存の核粒子の上に溶質の析出が起こるのみとなる。このような粒子の成長は、固液の平衡が成り立つまで続行し、溶解度以下の溶質濃度になって始めて、成長はストップする。以上のような LaMer diagram に基づく解析は単分散微粒子生成について、重要な結論を提示する。

(古澤)